

30 環 総 政 第 535 号

東京都環境影響評価審議会

東京都環境影響評価条例（昭和 55 年東京都条例第 96 号）第 50 条の規定に基づき、  
下記事項について諮問する。

平成 30 年 11 月 30 日

東京都知事 小池 百合子

記

諮問第 489 号 「(仮称) 品川駅北周辺地区 1 街区、2 街区、3 街区、4 街区  
開発事業」環境影響評価書案

## 受 理 報 告

区 分	対 象 事 業 名 称	受 理 年 月 日
1 環 境 影 響 評 価 書 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) 品川駅北周辺地区1街区、2街区、3街区、4街区開発事業</li> </ul>	平成30年11月5日
2 事 後 調 査 報 告 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) 四谷駅前地区市街地再開発事業(工事の施行中その2)</li> <li>・多摩都市計画道路3・4・19号線建設事業(工事の完了後その2)</li> <li>・株式会社 大博建設 採石場拡張事業(工事の施行中その4)</li> <li>・(仮称) 虎ノ門2-10計画建設事業(工事の施行中その2)</li> <li>・(仮称) 大久保三丁目西地区開発事業(工事の完了後)</li> </ul>	(別紙のとおり)
3 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業</li> <li>・(仮称) 東京港臨港道路南北線建設計画</li> </ul>	(別紙のとおり)
4 着 工 届 (事後調査計画書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称) 虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業</li> </ul>	平成30年11月7日

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 四谷駅前地区市街地再開発事業		
番号・答申日・受理日	1-299-2	H25.11.5	H30.10.31
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	計 画 地： 新宿区四谷一丁目及び本塩町の一部 事業区域面積： 約 2.4 ha 敷 地 面 積： 約 1.8 ha 延 床 面 積： 約 140,000 m <sup>2</sup> 最 高 高 さ： 約 145 m 住 宅 戸 数： 約 100 戸 駐 車 台 数： 約 360 台 主 要 用 途： 業務、商業、住宅、教育、駐車場等 工 事 期 間： 平成 26 年度～平成 32 (2020) 年度 (69 か月) 供 用 開 始： 平成 32 (2020) 年度 (予定)		
事後調査の区分	工事の施行中その 2		
調査項目・事項	土壌汚染、地盤、水循環、自然との触れ合い活動の場、廃棄物		
調査結果の内容	<p><b>1 土壌汚染（汚染土壌の掘削・処理等に伴う土壌への影響の内容及び程度）</b>            汚染土壌状況調査の結果、計画地の一部について、鉛による土壌汚染が確認されたことから、「形質変更時要届出区域」に指定された。その後、掘削除去の措置を実施し、「形質変更時要届出区域」の指定が解除された。</p> <p><b>2 地盤</b>  <b>(1) 地盤の変形の範囲及び変形の程度</b>            本調査期間における各調査地点の水準測量結果の変動幅は 0.001m～0.008m とわずかであったことから、掘削区域の周辺における地盤の著しい変形はないものと考えられる。  <b>(2) 掘削工事に伴う地下水の水位の変化の程度</b>            地下水位は、第 1 帯水層で T.P. +22.84～+29.45m、第 2 帯水層で T.P. +18.44～+27.08m、第 3 帯水層で T.P. +11.90～+21.34m であり、地下水位の著しい低下は見られなかったことから、掘削工事に伴う地下水位の低下による著しい地盤沈下はないものと考えられる。</p> <p><b>3 水循環（掘削工事等に伴う地下水の揚水による地下水位の変化の程度）</b>            地下水位は、第 1 帯水層で T.P. +22.84～+29.45m、第 2 帯水層で T.P. +18.44～+27.08m、第 3 帯水層で T.P. +11.90～+21.34m であり、地下水位の著しい低下は見られなかったことから、掘削工事に伴う地下水の揚水により、計画地周辺の地下水位に著しい影響を及ぼすことはなかったと考えられる。</p> <p><b>4 自然との触れ合い活動の場（自然との触れ合い活動の場までの利用経路に与える影響）</b>            「新宿区史跡めぐり地図」に示される史跡めぐりコース（市谷コース）の一部が計画地東側の外堀通りを利用経路としていることから、工事用車両の出入口に交通整理員を配置するとともに、出入口付近の街路樹の落ち葉などは清掃し、歩道の円滑な通行と快適な歩行空間の確保に努めた。            以上から、自然との触れ合い活動の場までの利用経路への著しい影響はないものとする。</p>		

事 項	内 容																																																																																																					
	<p data-bbox="459 241 603 275"><b>5 廃棄物</b></p> <p data-bbox="459 280 778 313"><b>(1) 建設発生土の発生量</b></p> <table border="1" data-bbox="515 353 1353 533"> <thead> <tr> <th rowspan="3">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">発生量 (m<sup>3</sup>)</th> <th rowspan="2">再利用率 (%)</th> <th colspan="2">発生量 (m<sup>3</sup>)</th> <th rowspan="2">再利用率 (%)</th> </tr> <tr> <th>今回</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>232,200</td> <td>92</td> <td>168,980</td> <td>219,410</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 571 751 604"><b>(2) 建設汚泥の発生量</b></p> <table border="1" data-bbox="515 645 1353 824"> <thead> <tr> <th rowspan="3">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">発生量 (m<sup>3</sup>)</th> <th rowspan="2">再資源化率 (%)</th> <th colspan="2">発生量 (m<sup>3</sup>)</th> <th rowspan="2">再資源化率 (%)</th> </tr> <tr> <th>今回</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設汚泥</td> <td>78,300</td> <td>90</td> <td>12,672</td> <td>20,086</td> <td>約 100</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="459 862 1018 896"><b>(3) 建設工事に伴い生じる廃棄物の発生量</b></p> <p data-bbox="483 900 1457 1081">コンクリート塊が予測結果を上回った理由として、SMW内側の掘削工事の際に既存資料では予想できなかった地下埋設物が確認されたこと、地下躯体や地中障害物の撤去に際する足場の補強として、地上躯体の解体時に発生したコンクリート塊を利用したものが含まれることなどが考えられる。</p> <p data-bbox="1058 1093 1345 1126">(事後調査結果は途中経過)</p> <table border="1" data-bbox="547 1126 1361 1675"> <thead> <tr> <th rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量 (t)</th> <th>再資源化率 (%)</th> <th>発生量 (t)</th> <th>再資源化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>約 1,106</td> <td>100</td> <td>6,104</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>アスファルト・コンクリート塊</td> <td>約 308</td> <td>100</td> <td>263</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>ガラス陶磁器</td> <td>約 294</td> <td>90</td> <td>6</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック</td> <td>約 210</td> <td>90</td> <td>149</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>約 182</td> <td>100</td> <td>3</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>約 266</td> <td>97</td> <td>197</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>約 140</td> <td>100</td> <td>6</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>石膏ボード</td> <td>約 266</td> <td>90</td> <td>1</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>約 742</td> <td>90</td> <td>92</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>約 3,514</td> <td>約 95</td> <td>6,821</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>					廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果			発生量 (m <sup>3</sup> )	再利用率 (%)	発生量 (m <sup>3</sup> )		再利用率 (%)	今回	累計	建設発生土	232,200	92	168,980	219,410	100	廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果			発生量 (m <sup>3</sup> )	再資源化率 (%)	発生量 (m <sup>3</sup> )		再資源化率 (%)	今回	累計	建設汚泥	78,300	90	12,672	20,086	約 100	廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果		発生量 (t)	再資源化率 (%)	発生量 (t)	再資源化率 (%)	コンクリート塊	約 1,106	100	6,104	100	アスファルト・コンクリート塊	約 308	100	263	100	ガラス陶磁器	約 294	90	6	100	廃プラスチック	約 210	90	149	100	金属くず	約 182	100	3	100	木くず	約 266	97	197	100	紙くず	約 140	100	6	100	石膏ボード	約 266	90	1	100	混合廃棄物	約 742	90	92	100	合計	約 3,514	約 95	6,821	100
廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果																																																																																																			
	発生量 (m <sup>3</sup> )	再利用率 (%)	発生量 (m <sup>3</sup> )		再利用率 (%)																																																																																																	
			今回	累計																																																																																																		
建設発生土	232,200	92	168,980	219,410	100																																																																																																	
廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果																																																																																																			
	発生量 (m <sup>3</sup> )	再資源化率 (%)	発生量 (m <sup>3</sup> )		再資源化率 (%)																																																																																																	
			今回	累計																																																																																																		
建設汚泥	78,300	90	12,672	20,086	約 100																																																																																																	
廃棄物の種類	予測結果		事後調査結果																																																																																																			
	発生量 (t)	再資源化率 (%)	発生量 (t)	再資源化率 (%)																																																																																																		
コンクリート塊	約 1,106	100	6,104	100																																																																																																		
アスファルト・コンクリート塊	約 308	100	263	100																																																																																																		
ガラス陶磁器	約 294	90	6	100																																																																																																		
廃プラスチック	約 210	90	149	100																																																																																																		
金属くず	約 182	100	3	100																																																																																																		
木くず	約 266	97	197	100																																																																																																		
紙くず	約 140	100	6	100																																																																																																		
石膏ボード	約 266	90	1	100																																																																																																		
混合廃棄物	約 742	90	92	100																																																																																																		
合計	約 3,514	約 95	6,821	100																																																																																																		
苦 情 の 有 無	無																																																																																																					

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	多摩都市計画道路 3・4・19 号線建設事業		
番号・答申日・受理日	1-90-1	H4.10.29	H30.11.9
事 業 の 種 類	道路の新設		
規 模	延 長： 約 1.4 km 起 点： 多摩市東寺方 終 点： 多摩市乞田 車 線 数： 往復 4 車線 道 路 幅 員： 25m (副道併設部 35m) 道 路 構 造： 平面構造 工 事 期 間： 平成 9 年度～平成 18 年度 供 用 開 始： 平成 18 年度		
事後調査の区分	工事の完了後その 2		
調査項目・事項	大気汚染、騒音、振動		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染（自動車交通に伴う大気中の汚染物質濃度）</b></p> <p>一酸化炭素の期間（7日間）平均値（0.3～0.6ppm）は、全ての地点で予測結果（年平均値 0.94～1.00ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.4～0.7ppm）は、全ての地点で予測結果（日平均値の年間 2%除外値 2.52～2.60ppm）を下回り、参考比較した環境基準（10ppm 以下）を下回った。</p> <p>二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.019～0.026ppm）は、全ての地点で予測結果（年平均値 0.028～0.031ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.026～0.035ppm）は、全ての地点で予測結果（日平均値の年間 98%値 0.052～0.057ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04～0.06ppm までのゾーン内またはそれ以下）を下回った。</p> <p>二酸化いおうの期間（7日間）平均値（0.000～0.001ppm）は、全ての地点で予測結果（年平均値 0.006～0.008ppm）を下回った。日平均値の最大値（0.001～0.002ppm）は、全ての地点で予測結果（日平均値の年間 2%除外値 0.019～0.021ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04ppm 以下）を下回った。</p> <p>参考調査した浮遊粒子状物質の日平均値の最大値（0.017～0.025mg/m<sup>3</sup>）は、全ての地点で環境基準（0.10 mg/m<sup>3</sup>以下）を下回った。</p> <p><b>2 騒音（道路交通騒音）</b></p> <p>騒音レベル（L<sub>A50</sub>）の事後調査結果（朝 46～59dB、昼間 46～60dB、夕 45～58dB、夜間 40～51dB）は、一部の地点で予測結果（朝 44～65dB、昼間 44～65dB、夕 41～58dB、夜間 36～51dB）を上回った。</p> <p>予測結果を上回った理由として、バス停留所や交差点に近接しているという道路構造上の制約等により、連続的な遮音壁の設置ができなかったことなどが挙げられる。</p> <p>騒音レベル（L<sub>Aeq</sub>）の事後調査結果（昼間 48～61dB、夜間 42～58dB）は、全ての地点で環境基準（昼間 70dB 以下、夜間 65dB 以下）を下回った。</p> <p><b>3 振動（道路交通振動）</b></p> <p>騒音レベル（L<sub>10</sub>）の事後調査結果（昼間 34～48dB、夜間 32～46dB）は、全ての地点で予測結果（昼間 52～56dB、夜間 51～55dB）及び規制基準（昼間 65又は 60 dB 以下、夜間 60 又は 55 dB 以下）を下回った。</p>		
苦 情 の 有 無	無		

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	株式会社 大博建設 採石場拡張事業		
番号・答申日・受理日	1-180-2	H11. 7. 19	H30. 11. 13
事 業 の 種 類	土石の採取		
規 模	事業所所在地：八王子市小津町一番地外 事業区域面積：323,461.5 m <sup>2</sup> （〔事業計画区域〕182,336 m <sup>2</sup> 〔既事業区域〕141,125.5 m <sup>2</sup> ） 採石期間：平成12年度から18年7ヶ月間（予定） 総採取岩量：502万t 生産品目：生コンクリート用砕石・砕砂、アスファルト用砕石、道路用路盤材 年間採取岩量：27万t 採掘方法：露天階段採掘法（道路運搬方式）		
事後調査の区分	工事の施行中その4		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、水質汚濁		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染</b></p> <p>(1) 環境大気（一般粉じん（降下ばいじん））            降下ばいじんの事後調査結果（〔敷地境界〕7.3t/km<sup>2</sup>/月〔最寄り民家〕4.6t/km<sup>2</sup>/月）は、いずれも評価書時の現況値（〔敷地境界〕13t/km<sup>2</sup>/月〔最寄り民家〕7t/km<sup>2</sup>/月）を下回った。</p> <p>(2) 環境大気（浮遊粒子状物質）            浮遊粒子状物質の期間（7日間）平均値の事後調査結果（〔敷地境界〕0.012mg/m<sup>3</sup>〔最寄り民家〕0.014mg/m<sup>3</sup>）は、いずれも予測結果（〔敷地境界〕0.043mg/m<sup>3</sup>〔最寄り民家〕0.044mg/m<sup>3</sup>）及び環境基準を下回った。</p> <p>(3) 沿道大気（浮遊粒子状物質、二酸化硫黄、一酸化炭素、二酸化窒素）            沿道大気の期間（7日間）平均値の事後調査結果（〔浮遊粒子状物質〕0.015mg/m<sup>3</sup>〔二酸化硫黄〕0.000ppm〔一酸化炭素〕0.0ppm〔二酸化窒素〕0.016ppm）は、いずれも予測結果（〔浮遊粒子状物質〕0.031mg/m<sup>3</sup>〔二酸化硫黄〕0.005ppm〔一酸化炭素〕0.4ppm〔二酸化窒素〕0.017ppm）及び環境基準を下回った。</p> <p><b>2 騒音</b></p> <p>(1) 採掘に伴い発生する発破騒音レベル            発破騒音レベル（L<sub>Amax</sub>）の事後調査結果（〔敷地境界〕54dB〔最寄り民家〕54dB）は、いずれも予測結果（〔敷地境界〕36dB〔最寄り民家〕38dB）及び規制基準（50dB以下）を上回った。予測結果を上回った理由として、重機騒音と同程度と想定していた減衰効果が発破騒音では見込めなかったこと、発破位置が深いV字状の谷底部であるため発破音の共鳴やうなりが発生したこと、火薬を装填するせん孔の向きが最寄り民家方向であったことなどが考えられる。</p> <p>(2) プラントの稼働に伴う工場騒音レベル            工場騒音レベル（L<sub>A5</sub>）の事後調査結果（〔敷地境界〕46dB〔最寄り民家〕44dB）は、いずれも予測結果（〔敷地境界〕47dB〔最寄り民家〕44dB）と同程度であり、規制基準（50dB以下）を下回った。</p>		

事 項	内 容
	<p>(3) 採石に伴い発生する重機騒音レベル  重機騒音レベル (<math>L_{A5}</math>) の事後調査結果 ([敷地境界]46dB [最寄り民家]51dB) は、最寄り民家において予測結果 ([敷地境界]45dB [最寄り民家]37dB) 及び規制基準 (50dB 以下) を上回った。予測結果を上回った理由として、調査地点近傍の他事業の採石出荷事業場及びリサイクル処理施設のバックハウ等が稼働していたためと考えられる。</p> <p>(4) ダンプトラックの走行に伴う道路交通騒音レベル  道路交通騒音レベル (<math>L_{A50}</math>) の事後調査結果 ([朝]48dB [昼間]47dB [夕]45dB [夜間]44dB) は、夜間において予測結果 ([朝]50dB [昼間]51dB [夕]47dB [夜間]40dB) を上回った。予測結果を上回った理由として、夜間の走行時間帯 (4～6時) に事業区域周辺から他社採石場へ向かう出勤用のダンプトラック等の増加があったためと考えられる。  道路交通騒音レベル (<math>L_{Aeq}</math>) の事後調査結果 ([昼間]64dB [夜間]61dB) は、いずれも環境基準 ([昼間]60dB 以下 [夜間]55dB 以下) を上回っているが、これらの調査結果は環境基準の時間区分とは異なる時間帯での調査であることから、直接比較はできない。</p> <p>3 振動</p> <p>(1) 採掘に伴い発生する発破振動レベル  発破振動レベル (<math>L_{max}</math>) の事後調査結果 ([敷地境界]52dB [最寄り民家]52dB) は、最寄り民家において予測結果 ([敷地境界]51dB [最寄り民家]48dB) を上回ったが、いずれも規制基準 (60dB 以下) を下回った。予測結果を上回った理由として、過去の事後調査結果においても敷地境界と最寄り民家の値はほとんど同値を示していることから、敷地境界から最寄り民家にかけての地盤は減衰しにくい状況にあるためと考えられる。</p> <p>(2) プラントの稼働に伴う工場振動レベル  工場振動レベル (<math>L_{10}</math>) の事後調査結果 ([敷地境界]25dB 未満 [最寄り民家]25dB 未満) は、いずれも予測結果 ([敷地境界]30dB 未満 [最寄り民家]30dB 未満) と同程度であり、規制基準 (60dB 以下) を下回った。</p> <p>(3) 採石に伴い発生する重機振動レベル  重機振動レベル (<math>L_{10}</math>) の事後調査結果 ([敷地境界]25dB 未満 [最寄り民家]25dB 未満) は、いずれも予測結果 ([敷地境界]53dB [最寄り民家]51dB) 及び規制基準 (60dB 以下) を下回った。</p> <p>(4) ダンプトラックの走行に伴う道路交通振動レベル  道路交通振動レベル (<math>L_{10}</math>) の事後調査結果 ([昼間]31dB [夜間]30dB) は、いずれも予測結果 ([昼間]39dB [夜間]30dB 未満) と同程度又は下回り、要請限度 ([昼間]65dB 以下 [夜間]60dB 以下) を下回った。</p> <p>4 水質汚濁 (降雨により発生する濁水による小津川 (放流河川) への水質 (SS 濃度) の変化の程度)  小津川 2 地点 (No. 4、No. 5) における水質 (SS 濃度) の調査結果 ([1 回目調査]全地点で 1mg/L 未満 [2 回目調査]1mg/L 未満～1mg/L) は、いずれも予測結果 (20.7～22.5mg/L) を下回ったことから、放流口からの流入前後で小津川 (放流河川) の水質の変化は小さいものとする。</p>
苦 情 の 有 無	無

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 虎ノ門2-10計画建設事業		
番号・答申日・受理日	2-312-2	H26. 11. 27	H30. 10. 29
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	所 在 地：港区虎ノ門二丁目10番3号、4号 敷 地 面 積：約25,500 m <sup>2</sup> 建 築 面 積：約8,700 m <sup>2</sup> 延 床 面 積：約183,000 m <sup>2</sup> 建築物最高高さ：約188.7m (地上38階、地下4階) 建築物用途：ホテル、オフィス、美術館、駐車場等 工事予定期間：平成27年～平成31年 供用開始予定：平成31年		
事後調査の区分	工事の施行中その2		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、史跡・文化財		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染（工事用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度）</b>            二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.020～0.028ppm）は、予測結果（0.02565～0.02621ppm）と同程度であった。日平均値の最高値（0.031～0.041ppm）は、予測結果（日平均値の年間98%値 0.04597～0.04668ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下）を満足した。            浮遊粒子状物質の期間（7日間）平均値（0.020mg/m<sup>3</sup>）は、予測結果（0.02303mg/m<sup>3</sup>）を下回った。日平均値の最高値（0.031mg/m<sup>3</sup>）は、予測結果（日平均値の年間2%除外値0.05218mg/m<sup>3</sup>）を下回り、参考比較した環境基準（0.10mg/m<sup>3</sup>以下）を下回った。</p> <p><b>2 騒音・振動（工事用車両の走行に伴う道路交通の騒音・振動）</b>            騒音レベル（L<sub>Aeq</sub>）の事後調査結果（63～66dB）は、全ての地点で予測結果（63～65dB）と同程度であり、No.4地点で環境基準（No.1,2 昼間 65dB 以下、No.4 昼間 65dB 以下、No.6 昼間 70dB 以下）を上回った。No.4地点は、評価書における現地調査においても、すでに環境基準を上回っていた地点である。            振動レベル（L<sub>10</sub>）の事後調査結果（昼間 48～52dB、夜間 43～48dB）は、1地点で予測結果（昼間 47～54dB、夜間 42～50dB）を上回り、残りの地点では同程度又は下回った。また、全ての地点で環境確保条例に基づく規制基準（昼間 65 又は 60dB 以下、夜間 60 又は 55dB 以下）を下回った。予測を上回った理由としては、道路舗装の状況が考えられる。</p> <p><b>3 史跡・文化財</b>  <b>(1) 対象事業の計画地内の文化財の現状変更の程度</b>            計画地内に現存する国の登録有形文化財（建造物）である「大倉集古館陳列館」については、保存及び活用のため平成28年6月に曳家工事を実施した後、適切な維持管理に努めている。  <b>(2) 埋蔵文化財包蔵地の改変の程度</b>            今回報告期間において、新たな埋蔵文化財等は発見されなかった。</p>		
苦 情 の 有 無	騒音・振動に関するものが2件あった。工事内容について説明し、理解を得た。また、改めて作業員に建設機械のアイドリングストップ等の徹底を周知し、その後、同様の苦情はなかった。		



## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 大久保三丁目西地区開発事業		
番号・答申日・受理日	2-275-2	H22. 1. 19	H30. 11. 14
事 業 の 種 類	高層建築物の新築		
規 模	所 在 地：新宿区大久保三丁目 8 番 計画敷地面積：約 25,200 m <sup>2</sup> 延 床 面 積：180,999.62 m <sup>2</sup> 最高建物高さ：159.66m 主 要 用 途：オフィス、住宅、多目的ホール、店舗、保育所、駐車場等 住 宅 戸 数：724 戸 駐 車 場 台 数：522 台 工 事 期 間：平成 22 年度～平成 27 年度 供 用 開 始：平成 26 年度(住宅棟)、平成 28 年度(業務・住宅棟)		
事後調査の区分	工事の完了後		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、水循環、日影、電波障害、風環境、景観、自然との 触れ合い活動の場、廃棄物、温室効果ガス		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染</b></p> <p>(1) 関連車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度</p> <p>二酸化窒素の期間(7日間)平均値(0.015～0.022ppm)は、全ての地点で予測結果(0.03074～0.03134ppm)を下回った。また、日平均値の最高値(0.026～0.032ppm)は、全ての地点で予測結果(0.05331～0.05405ppm)を下回り、参考比較した環境基準(0.04から0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下)を下回った。</p> <p>浮遊粒子状物質については、予測条件である断面交通量の事後調査結果が予測結果を下回っており、二酸化窒素の事後調査結果が予測結果を下回っていることから、予測結果を下回っていると考えられる。</p> <p>(2) 駐車場の供用に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度</p> <p>二酸化窒素の期間(7日間)平均値(0.013ppm)は、予測結果(0.0278ppm)を下回った。また、日平均値の最高値(0.034ppm)は、予測結果(0.0514ppm)を下回り、参考比較した環境基準を下回った。</p> <p>浮遊粒子状物質の期間(7日間)平均値(0.010mg/m<sup>3</sup>)は、予測結果(0.02501 mg/m<sup>3</sup>)を下回った。また、日平均値の最高値(0.035mg/m<sup>3</sup>)は、予測結果(0.061832mg/m<sup>3</sup>)を下回り、参考比較した環境基準(0.10mg/m<sup>3</sup>以下)を下回った。</p> <p><b>2 騒音・振動</b></p> <p>(1) 関連車両の走行に伴う道路交通騒音</p> <p>騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)の事後調査結果(昼間62～64dB、夜間57～61dB)は、予測結果(昼間65～70dB、夜間60～65dB)及び環境基準(昼間70又は65dB以下、夜間65又は60dB以下)を下回った。</p> <p>(2) 関連車両の走行に伴う道路交通振動</p> <p>振動レベル(L<sub>10</sub>)の事後調査結果(昼間40～47dB、夜間35～43dB)は、予測結果(昼間46～52dB、夜間44～49dB)及び規制基準(昼間60dB以下、夜間55dB以下)を下回った。</p>		

事 項	内 容
	<p><b>3 水循環（土地の改変に伴う地表面流出水量の変化の程度）</b>  浸透施設による抑制対策として、雨水浸透施設、浸透舗装を整備し、雨水貯留槽と合わせて合計で 1,626.8 m<sup>3</sup>の抑制対策量を整備し、予測結果（1,524 m<sup>3</sup>）を上回った。これにより、「新宿区雨水流出抑制施設の設置に関する要綱」に示される必要な抑制対策量(1,512 m<sup>3</sup>)を確保することから、雨水を一時貯留し、地表面流出水量を抑制することができると思う。</p> <p><b>4 日影</b>  (1) 計画建築物の設置に伴う冬至日における日影の範囲、日影となる時刻及び時間数等の日影の状況の変化の程度  予測条件とした計画建築物の配置や形状、高さ等については大きな変更はなく、冬至日における日影の範囲、時刻、時間数等は、おおむね予測結果と一致した。  (2) 日影が生じることによる影響に特に配慮すべき施設等における日影となる時刻、時間数等の状況の変化の程度  歩行者通路上に設置した庇等により、新たに日影が生じる地点もあるが、いずれも高さは低く、影響は限定的な範囲に限られており、冬至日における計画建築物の高層部分による日影時間は、おおむね予測結果と一致した。</p> <p><b>5 電波障害（計画建築物の設置によるテレビ電波の受信障害）</b>  遮へい障害予測範囲内の一部の地点で品質評価が低くなったものの、画像評価は全て「正常に受信」であり、電波障害に係る苦情等はなかったことから計画建築物によるテレビ電波の受信障害は発生していないと考えられる。</p> <p><b>6 風環境（計画建築物の設置に伴う平均風向、平均風速及び最大風速等の突風の状況とそれらの変化する地域の範囲及び程度）</b>  事後調査結果は、No.1 及び No.2 地点ともにランク 2 であり、No.2 地点で予測結果（No.1 ランク 2、No.2 ランク 1）を上回った。  予測を上回った理由は、台風の接近により風速が 20m/s を超過した日が 1 日出現したことによるものである。  なお、両地点ともに住宅街・公園相当の風環境であり、計画地周辺の空間用途に対応した風環境であると考えられる。</p> <p><b>7 景観</b>  (1) 計画建築物の設置に伴う主要な景観の構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度  事後調査結果は予測結果とおおむね一致し、高層建築物等を含む近代的な建築物が建設され、広場や歩行者空間には緑化が施されることにより、賑わいのある新しい都市景観が創出されている。  (2) 計画建築物の設置に伴う代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度  計画建築物は、おおむね予測どおりの位置に視認されて、事後調査結果は、予測結果と同様に計画建築物は地域のランドマークとして認識され、新たな都市景観が創出されている。</p>

事 項	内 容																																																										
	<p>(3) 計画建築物の設置に伴う代表的な眺望地点からの圧迫感の変化の程度  既存及び計画建築物の形態率は予測結果と比較して増減している地点があったが、予測条件とした計画建築物の配置や形状、高さ等については大きな変更はないことから周辺の状況変化によるものと考えられる。また、計画地内を緑化することにより、圧迫感の低減を図っている。</p> <p>8 自然との触れ合い活動の場（自然との触れ合い活動の場が持つ機能の変化の程度）  計画地内の南北及び東西方向に歩行者用道路や歩道状空を整備したことにより、予測結果と同様に安全で快適な歩行者空間が創出され、利便性が向上している。また、歩行者空間の周辺には隣接する都立戸山公園や区立西戸山公園の植生に合わせた樹種が植栽されており、連続したまとまった緑が創出されている。</p> <p>9 廃棄物（施設の供用に伴う一般廃棄物の種類及び排出量）  再資源化率が予測結果を下回った理由としては、住宅以外については弁当ガラ等の油分等が付着したものの分別が困難であったことなどが考えられる。</p> <table border="1" data-bbox="438 929 1433 1238"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>廃棄物発生量 (kg/日)</th> <th>再資源化率 (%)</th> <th>廃棄物発生量 (kg/日)</th> <th>再資源化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住宅以外</td> <td>2,524</td> <td>62</td> <td>1640.9</td> <td>54.2</td> </tr> <tr> <td>住宅</td> <td>2,550</td> <td>25</td> <td>861.9</td> <td>21.3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,074</td> <td>—</td> <td>2502.8</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>10 温室効果ガス（施設の供用に伴う温室効果ガスの排出量またはエネルギーの使用量の程度及びその削減の程度）</p> <table border="1" data-bbox="438 1451 1444 2007"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>二酸化炭素排出量 (tCO<sub>2</sub>/年)</th> <th>削減量 (tCO<sub>2</sub>/年)</th> <th>二酸化炭素排出量の削減率 (%)</th> <th>二酸化炭素排出量 (tCO<sub>2</sub>/年)</th> <th>削減量 (tCO<sub>2</sub>/年)</th> <th>二酸化炭素排出量の削減率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>住宅以外 (テナントビル)</td> <td>8,503</td> <td>1,597</td> <td>15.8</td> <td>6,157</td> <td>3,943</td> <td>39.0</td> </tr> <tr> <td>住宅</td> <td>2,379</td> <td>154</td> <td>6.1</td> <td>2,360</td> <td>173</td> <td>6.8</td> </tr> <tr> <td>建築物全体</td> <td>10,882</td> <td>1,751</td> <td>13.9</td> <td>8,517</td> <td>4,116</td> <td>32.6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	予測結果		事後調査結果		廃棄物発生量 (kg/日)	再資源化率 (%)	廃棄物発生量 (kg/日)	再資源化率 (%)	住宅以外	2,524	62	1640.9	54.2	住宅	2,550	25	861.9	21.3	合計	5,074	—	2502.8	—	区分	予測結果			事後調査結果			二酸化炭素排出量 (tCO <sub>2</sub> /年)	削減量 (tCO <sub>2</sub> /年)	二酸化炭素排出量の削減率 (%)	二酸化炭素排出量 (tCO <sub>2</sub> /年)	削減量 (tCO <sub>2</sub> /年)	二酸化炭素排出量の削減率 (%)	住宅以外 (テナントビル)	8,503	1,597	15.8	6,157	3,943	39.0	住宅	2,379	154	6.1	2,360	173	6.8	建築物全体	10,882	1,751	13.9	8,517	4,116	32.6
区分	予測結果		事後調査結果																																																								
	廃棄物発生量 (kg/日)	再資源化率 (%)	廃棄物発生量 (kg/日)	再資源化率 (%)																																																							
住宅以外	2,524	62	1640.9	54.2																																																							
住宅	2,550	25	861.9	21.3																																																							
合計	5,074	—	2502.8	—																																																							
区分	予測結果			事後調査結果																																																							
	二酸化炭素排出量 (tCO <sub>2</sub> /年)	削減量 (tCO <sub>2</sub> /年)	二酸化炭素排出量の削減率 (%)	二酸化炭素排出量 (tCO <sub>2</sub> /年)	削減量 (tCO <sub>2</sub> /年)	二酸化炭素排出量の削減率 (%)																																																					
住宅以外 (テナントビル)	8,503	1,597	15.8	6,157	3,943	39.0																																																					
住宅	2,379	154	6.1	2,360	173	6.8																																																					
建築物全体	10,882	1,751	13.9	8,517	4,116	32.6																																																					
苦情の有無	無																																																										

## 変 更 届

事 項	内 容								
事 業 名	(仮称) 晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業								
番号・答申日・受理日	1-323-2	H27. 9. 24	H30. 10. 31						
事 業 の 種 類	住宅団地の新設								
規 模	<p>計 画 地 : 中央区晴海五丁目地内            事業区域面積 : 約 180,000 m<sup>2</sup>            敷 地 面 積 : 約 133,900 m<sup>2</sup>            建 築 面 積 : 約 46,700 m<sup>2</sup>            延 床 面 積 : 約 673,550 m<sup>2</sup>            建 物 高 さ : 約 180m (180m以下)            住 宅 戸 数 : 約 5,650 戸            主 要 用 途 : 住宅、商業等            工事予定期間 : [Ⅰ期工事] 平成 28(2016)年度～平成 31(2019)年度                              [Ⅱ期工事] 平成 32(2020)年度～平成 35(2023)年度            供用開始予定 : 平成 36(2024)年度 (最終供用分)</p>								
変 更 内 容 の 概 略	<p><b>1 変更理由</b>            築地市場移転の遅延に伴い供用開始が遅れていた環状二号線が、平成 30 年 11 月に暫定開通 (築地～豊洲間) することから、工事用車両の走行ルートの一部を変更する。</p> <p><b>2 変更内容</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 45%;">変更後</th> <th style="width: 40%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事用車両の走行ルート</td> <td>環状二号線については、<u>築地～晴海間及び晴海～豊洲間</u>を通行</td> <td>環状二号線については、晴海～豊洲間に限り通行</td> </tr> </tbody> </table> <p>※なお、その他の工事用車両の走行ルートに変更はない。</p>			項目	変更後	変更前	工事用車両の走行ルート	環状二号線については、 <u>築地～晴海間及び晴海～豊洲間</u> を通行	環状二号線については、晴海～豊洲間に限り通行
項目	変更後	変更前							
工事用車両の走行ルート	環状二号線については、 <u>築地～晴海間及び晴海～豊洲間</u> を通行	環状二号線については、晴海～豊洲間に限り通行							
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	<p>工事用車両の走行ルートは一部変更となるが、変更後の最大となる工事用車両台数は変更前における台数を下回り、また環状二号線 (築地～晴海間) を走行する台数は評価書における台数を下回ることから、予測・評価の見直しは行わない。</p>								

変 更 届

事 項	内 容								
事 業 名	(仮称) 東京港臨港道路南北線建設計画								
番号・答申日・受理日	2-274-2	H27.10.29	H30.11.6						
事 業 の 種 類	道路の新設								
規 模	延 長： 約 2.5 km 起 点： 10号地その2埋立地(江東区有明四丁目) 終 点： 中央防波堤内側埋立地 車 線 数： 往復4車線 構 造 形 式： [トンネル構造] 約1.6km、[スリット構造] 約0.1km [掘割構造] 約0.5km、[平坦部] 約0.2km、[嵩上げ部] 約0.1km 工 事 期 間： 平成28年度～平成32(2020)年度(予定) 供 用 開 始： 平成32(2020)年(予定)								
変更内容の概略	<p><b>1 変更理由</b>                      陸上工事におけるトンネル工事(接続部構造)の施工において過去の資料から確認できなかった埋立時の旧仮護岸が地中から見つかり、その撤去作業に時間を要したため、工事期間を延長する。</p> <p><b>2 変更内容</b></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%;">変更後</th> <th style="width: 35%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">工事期間</td> <td style="text-align: center;">平成28年度から 平成32年度まで</td> <td style="text-align: center;">平成28年度から 平成31年度まで</td> </tr> </tbody> </table>				変更後	変更前	工事期間	平成28年度から 平成32年度まで	平成28年度から 平成31年度まで
	変更後	変更前							
工事期間	平成28年度から 平成32年度まで	平成28年度から 平成31年度まで							
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	今回の変更において工事期間は変わるが、工法・規模等の予測条件に変更はないことから、予測・評価の見直しは行わない。								